

団体の活動・悩み についてのご意見

- 外に出て行くことを目的に活動している
じっとしていると筋肉が弱る、家から一歩出ると身体も脳も使う
- 他団体とのつながり・自分の知識にもつながる
- コロナ禍により、活動が厳しくなった
- 情報発信しても、見てもらえていない
- 男性会員が少ない
女性は子どものことや近所のつきあいが多く、地域のつながりが強い傾向
男性が現役で働いている段階では、つながる機会が少ない状況
市民に知ってもらいたい
- 60歳になる方へのサークルの案内が個人情報の観点からできなくなった
現役後の活動のスタートラインは、平等であるのではないかと
男性と女性のバランスが必要
父親の参加が増えてきているので、世代交代で流れが変わっていくのではないかと
共働きなので、家庭・仕事とともに地域が定着するのではないかと
- 以前、サポートセンターでの活動発表がきっかけになり、今でも活動している
- サポートセンターのホームページを活用している
- イベントごとにポスターを作成し、市内公共施設に配布して設置する交換便を活用している
- 発信方法の確立は必要である
- 助成金を受けて活動している
文化庁からの助成金をいただいているので、感謝することを伝えている
会員費がないと長続きしないのではないかと
企業からの協力・行政との支援のしくみ

花柳千衛里会



花柳千衛里さん 後藤さん



土井さん コープみらい
鈴木さん SSS(R) 福生
三浦さん フードバンクふっさ
みらいひろば福生



コロナ禍で登録団体の方同士も中々交流できない状況が続いておりましたが、この座談会を通し、団体の垣根を越えて活発な情報交換・情報共有する姿を拝見できました。

もとより、国際・文化・平和・健康・貧困問題など様々なジャンルでご活躍されている方々でこの座談会も多岐にわたるテーマが話題となり、意見交換ができましたこと、改めて感謝申し上げます。

皆様が現在抱えている課題等も共有することで、何かヒントを得ることができたり、これからの活動への自信に繋がったのではないのでしょうか。

この座談会でも男性と女性の特徴等も話題に出ましたが、刻一刻と情勢が変わっていく現代社会の中、時代に沿ってジェンダーや SDGs 等々、これからも職員一同日々学習していく姿勢を忘れず、また皆様との関わりも大事にしながらか中間支援組織として努めていきたいと思っております。

KAGAYAKI100 号の座談会ではありましたが、またこのような機会があることを願っております。また、KAGAYAKI100 号から、150 号・200 号と続けられるようにしていきたいです。

ご出席いただきありがとうございました

登録団体による 活動紹介輝き 2022

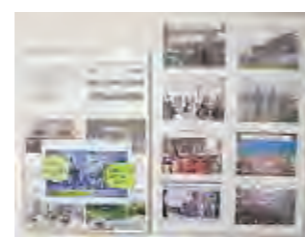
開催日：8月27日(土)～28日(日)

8月27日(土) 来場者数 60名 スタッフ6名

8月28日(日) 来場者数 51名 スタッフ8名

参加団体

- 特定非営利活動法人 ヒューマンケア
- 福生古文書研究会
- ガールスカウト東京都第191団
- シニアあすなる
- ドイツ平和村をサポートする会
- 西多摩百景写真展実行委員会
- 花柳千衛里会
- 倫理研究所「家庭倫理の会」福生支部
- 福生市町会長協議会
- 俳句会金木犀
- コープみらい みらいひろば福生
- SSS(R) 福生
- 悠々会
- ハイサイ!三線倶楽部
- 多摩川中央公園 parkrun
- フードバンクふっさ (登録順)



福生市輝き市民サポートセンターの登録団体が、日頃どんな活動をしているかを広く市民に知っていただくことを目的として「活動紹介輝き 2022」を開催しました。参加団体の展示物は、本事業に向け長い期間をかけて作成したそれぞれの団体の成果物であり、登録団体の活動に触れていただく機会となりました。

前日の準備では、団体同士が活動の報告や今後の活動、展示品について和気あいあいと話す様子が印象的でした。当日は生憎の天気でしたが、来場者の方々が、展示作品をひとつひとつ興味深くご覧いただいている様子が見受けられ、パンフレットを持って帰られる方もいらっしゃいました。また、来場者だけではなく団体同士との交流の場にもなっていました。

また、今回コーナーの角に KAGAYAKI100 号記念として、サポートセンターのこれまでを展示させていただきました。